

●第7回教科等指導力養成講座

令和2年9月26日（土）に、教職員研修センターにて、第7回教科等指導力養成講座を実施しました。講座前の高瀬主任指導主事の挨拶では、「いじめ」の定義や防止するための取組をお話しいただきました。また、「軽微ないじめを見逃さないこと」、「相談しやすい環境の中で、いじめから子供を守り通すこと」、「子供たち自身がいじめについて考え行動できるようにすること」、「保護者の理解や協力を得て、いじめの解決を図ること」、「社会全体の力を結集し、いじめに対処すること」などがあり、塾生はいじめへの対応について具体的に学ぶことができました。

【小学校コース】

道徳の講座では、養成塾の木村教授、土屋教授、野口教授、近谷教授が道徳科の1時間の授業の流れや学習指導過程を説明しました。道徳科の授業づくりの基本を中心とした、具体的な指導の工夫について、様々な指導方法を解説しました。

後半では、教材文「きいろいベンチ」を題材に、模擬授業形式での講座を行いました。塾生は、明確な指導の意図をもって授業構想を組み立てることが大切だと学びました。

国語の講座では、養成塾の岩田教授、齋藤教授、對馬教授、小幡教授が、国語の時間では、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を、1単位時間の中に全て配置するのではなく、単元全体を見通して位置付けることを説明しました。

後半では、学習指導案の本時の作成演習を通して、授業づくりの基礎を養うとともに、他の塾生とアイデアを共有し、様々な指導方法を学びました。

【特別支援学校コース】

「自立活動とコミュニケーションの指導」では、都立小平特別支援学校の谷本指導教諭を招聘して、「自立活動の定義」、「個別指導計画の作成方法と留意点」を指導いただきました。一人一人に応じた指導の充実を図るためには、児童・生徒の実態を的確に捉えて個別指導計画を作成することが肝要であることを学習指導要領解説や御自身の経験を基に、説明いただきました。

講義中のグループによる協議では、どの塾生も意見を活発に出し合うことができ、充実した話し合いを行いました。

「特別支援学校の教材づくり～ICTを活用した授業実践を中心として～」では、都立石神井特別支援学校の海老澤指導教諭をお招きし、ICTを思考・表現のツールとして活用した実践事例を紹介いただきました。

その後、塾生はプログラミングツールを活用した教材づくりに取り組み、ICTの活用方法と指導の留意点を体験的に学ぶことができました。



＜国語の講座＞



＜道徳の講座＞



＜特別支援学校コースの講座＞



【塾生の感想より】

- ・道徳の講座では、模擬授業形式の講義演習を通して、学習指導過程の流れについて具体的に学ぶことができました。今後の授業研究では、「本時の学習のねらいに迫るために、どのように学ぶのか。」、明確な指導の意図をもち、書く活動や動作化、役割演技を効果的に取り入れていきたい。
- ・国語の教材文「ごんぎつね」を活用した学習指導案の作成演習を通して、基本的な授業の流れや言語活動を適切に設定することの大切さを学んだ。
- ・「自立活動とコミュニケーションの指導」の講座では、個別指導計画の作成の留意点を学んだ。障害の特性だけでなく、興味関心のあるものや生活全般の様子まで幅広く児童・生徒の実態把握をすることで、長期的目標と短期的目標を適切に設定することができることが分かった。
- ・「特別支援学校の教材づくり」の講座では、ICTを視覚支援としての活用だけでなく、児童・生徒のアウトプットの方法として活用することも有効であることを学んだ。

●第8回教科等指導力養成講座

令和2年10月17日(土)に、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、体育の実技や安全等について、養成塾教授による講義・演習等を実施しました。

高瀬主任指導主事の挨拶では、「運動会や学芸会、移動教室等の学校行事は児童の心身の成長に欠かせないものであること」や「一人一人の児童が運動に親しみ、豊かなスポーツライフを送ろうとする態度を育てるためには、体育学習の充実は欠かせないこと」、「体育学習では、児童生徒の安全を確保することが重要であること」についての話があり、塾生は体育学習の重要性を学ぶことができました。

【全員共通】

午前中の「集団行動」の実技演習では、土屋教授が集団行動の目的や号令のかけ方、児童・生徒に指導する際の留意点を解説しました。実際の学校生活の場面で活用できるよう、体験を通して学びました。

「マット運動」の実技演習では、野口教授が低学年を想定したマット遊びの活動と技能のポイントを解説しました。非日常的な運動感覚を楽しく養うための活動を実技を通して学びました。

「陸上運動」の実技演習では、齊藤教授が、低学年の「走の運動遊び」における学習を模擬授業形式で行いました。実際の指導場面での声掛けの仕方や安全指導上の留意点などを具体的に学びました。

「安全指導」の講義では、牛島教授が、体育の各領域における安全指導や安全管理について説明しました。体育器具の正しい使用には、ルールやマナーの徹底を図ることが重要であることを学びました。

午後の「授業づくりの基礎(体育)」の講座では、齊藤教授、土屋教授、野口教授、牛島教授が、「体育学習の指導計画(年間、単元、1単位時間)の作成のポイント」や「教材選択・教材づくりの重要性」、「1単位時間の運動量を確保するために大切なこと」、「教師の児童生徒への言葉掛けの留意点」を説明しました。

後半では、実際の学習指導案の作成演習を通して、体育学習の基礎・基本や授業づくりを学びました。



<集団行動の演習>



<走の運動遊びの演習>



<午後の講義①>



<マット運動の演習>



<安全指導の講義>



<午後の講座②>

【塾生の感想より】

- ・ 集団行動の実技演習では、児童が心地よいと感じることができるよう、規律ある効率的な集団行動を児童に指導することが大切であることを学んだ。また、集団行動の指導の充実が学級づくりにもつながることも学んだ。
- ・ 陸上運動の実技演習を通して、具体的な児童への声掛け、活動の場をどのように設定していくか、安全面での配慮など、運動量を確保した上で、体育学習を進めていくことの大切さを学ぶことができた。
- ・ マット運動の実技演習では、児童の運動感覚を養うための運動遊びや前転の具体的な技能のポイントを学ぶことができた。
- ・ 安全指導の講義では、体育における事故を防ぐために体育用具の運び方や活動の場の設定の仕方など、安全管理と事前指導を徹底することが事故防止につながることを学んだ。
- ・ 午後の「走の運動遊び」における学習活動作成演習を通して、教師が明確な指導の意図をもつことで、児童自身も見通しをもち、主体的に学習に取り組むことができることを学んだ。今後、様々な運動の特性について学び、体育学習の充実を図っていきたい。